

東日薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地 ☎ (01332) 3-0301 直通・FAX
 北海道医療大学薬学部同窓会 ☎ (01332) 3-1211 大学代表 発行人 山崎 信彦
 印刷所 (株)廣濟堂/札幌営業所 札幌市白石区菊水二条1 ☎ (011) 842-5510



目次

新年を迎えて 2
 20周年記念式典開催 3
 一薬草園に新しいアイテム
 (遊歩道とホームページ)ができましたー 4
 随筆 ーボストンの夕やけー 5
 一般会計報告 6

『新年を迎えて』

東日薬会長 山崎 信彦

会員皆様におかれましては益々ご清祥のことと思います。

去年は私達同窓会の設立20周年ということで7月には記念祝賀会を開催することが出来ました。全国から多くの会員の皆様にお集まりいただき会は大盛況の内に終えることが出来誠に有難うございました。主催者のひとりとして心より感謝申し上げます。この祝賀会の開催にあたり会設立以来初めての全国支部長会議を開くことが出来ました。初めての会議で時間は短かったのですが有意義な話し合いを持つことが出来ました。これを機会に会員皆様がたのご意見、ご要望をこの会の運営に今まで以上に反映することが出来ることと考えます。

さて、病院薬剤師と薬局薬剤師に関する環境で2つのことが今問題になっています。一つ目は平成11年12月より薬局薬剤師の人材派遣が認められたことです。これは一時的な薬剤師の不足を解決するものとも言われていますがこの許可は薬局での薬剤師の方向性を2つに分けるものであると考えます。その場だけのテクニシャンとしての薬剤師とベットサイドや在宅で活動をする医療チームの中の薬剤師に分かれることと考えます。私達は今までただ一つの目標である臨床薬剤師やかかりつけ薬局を目指しましょうという環境の中で活動して来ました。その活動に対する世の中のニーズと評価がこのような許可につながってきたのかなと考えます。派遣薬剤師はテクニシャンとしての薬剤師となり、ひとつ間違えれば免許さえ持っていれば誰でもいい、薬のチェックさえ出きればいいと言う、本来私達の仕事である「患者さんに薬を使用してもらう」という中の一部分に止まってしまう可能性をもっていると考えます。2つ目は病院薬剤師の入院患者に対する定数です。ほとんどの病院で入院患者75名に対し一人の薬剤師、この人数で本当に今までの業務である院内調剤、注射の払出し、900点業務、DI活動をこなすことが出来るのでしょうか、私は本当に疑問です。

今、私は大学と2つのことについて検討し草案作りを行っています。1つは新卒の就職と既卒の再就職の件です。病院での入院患者に対する薬剤師の定数や薬局薬剤師の人材派遣をふまえて、これから予想される職場環境悪化へ対応する為に大学と同窓会が連携をとり「東日薬の会員には就職には困らせない、私達の職業を生かせるような職場に就ける」を目的としシステム作りを検討しています。世の中の大学に対する評価は卒業生に対する評価です。会員には十分に力を発揮できる環境を与えるべきです。2つ目は東日薬会員の子供たちの母校への入学です。今も何人かの子供が母校で学んでいます。この事実はあまり知られていないよう思われます。私達の子供が私達が学んだ大学で教育を受けることは私達にとっても、子供たちにとってもとても素晴らしいことであると考えます。子供たちが医療に興味を持ち、医療系大学を志望するのであれば、是非子供たちに母校である医療大の受験を進めてください。もし受験するのであれば同窓会の本部までご連絡ください、同窓会本部は大学に連絡します。このことは母校に正確な数字を呈示し、実績をふまえて、私達の子供を入学させて欲しいと要望します。その時にはきっと母校は私達の希望をかなえてくれることと確信しています。

今私達に必要なのは組織的に活動を行うことです、設立20年をむかえ多くの会員が全国各地であらゆる職域で活躍しています。私達は組織的に活動し、社会に貢献することが大事であると考えます。さらに私達の可能性を広げる為に薬剤師会などの団体で活動し、これから私達に続く後輩の為に既得権を主張するだけの薬剤師ではなく、職域を増やすようなあらゆる可能性をもった環境作りの為に組織的に活動するべきであると考えます。これは自他認めるところであります。私達のこの会は今強い組織作りを目指しています多くの会員のご協力をお願いします。

『20周年記念式典開催』

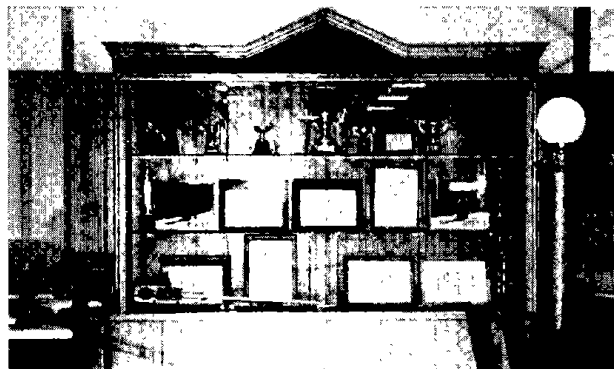
薬学部同窓会理事 木村 真一

去る平成11年7月17日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて北海道医療大学薬学部同窓会・東日薬設立20周年記念式典が開催されました。昭和55年に設立された薬学部同窓会は今年で設立20周年を迎え、大学とともに大きく発展をとげています。現在の会員数は3,000名を超えています。

記念式典当日は御多忙中にも関わらず、学内外より30数名の来賓の御列席をいただき、同窓生と合わせ、総勢220名を超える盛大な会となりました。式典は同窓会会長の挨拶のあと、北海道薬剤師会会長、北海道病院薬剤師会会長、本学理事長ならびに学長の祝辞を頂戴し、本学後援会会長の発声により祝杯があげられました。歓談の途中で歯学部と歯科衛生士専門学校同窓会会長からのスピーチをいただき、続いて、同窓会の各支部長の紹介が行われました。北海道はもとより、遠く沖縄など全国各地から、さらに1期生から今春卒業した22期生まで幅広い層の卒業生が一同に集い、思い思いの会話に花が咲きました。学生時代を思い起こし昔を懐かしむ声、昨今の薬剤師をとりまく環境の変化など薬学の今後を語り合う声など、賑やかな歓談の中、時間は瞬く間に過ぎさってしまいました。最後は薬学部長の乾杯により式典の終焉が告げられました。

20周年記念式典を盛況裡に終えることができ、開学以来、本学の発展に御尽力を尽くされた、学内外の諸先生に深謝するとともに、本学ならびに薬学部同窓会の今後のさらなる発展を祈念する次第です。

尚、本式典において20周年を記念して同窓会から本学薬学部記念品としてショーケースを贈呈させていただきました。薬学部一階のロビーに設置され、写真にありますように各クラブ活動における賞状、トロフィーが陳列されています。



表紙の写真は20周年記念式典において支部長紹介の際に撮影されたものです。

左から比嘉 保 沖縄支部長(3期)、三上 章 青森支部長(1期)、中村 章 十勝支部長(1期)、笠原章平 前根釧支部長(1期)、畑中 勝 道北支部長(3期)、田中稔泰 札幌支部長(3期)、杉本雅規 北越支部長(3期)、川北恵一 栃木支部長(1期)、林 則幸 函館支部長代理(1期)。

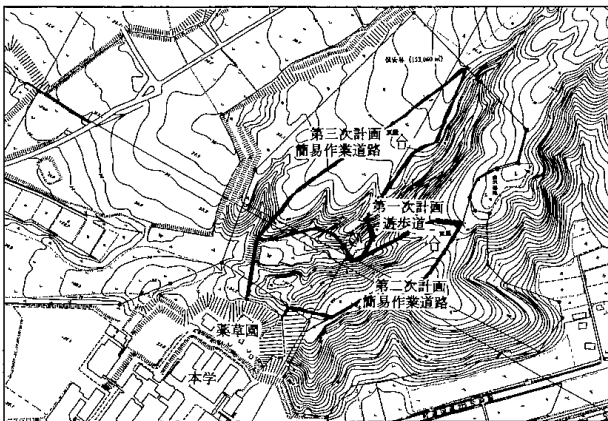
なお、20周年記念式典の開催に併せて、各支部長、山崎東日薬会長、星野前東日薬会長、遠藤理事、浜上理事が出席して支部長会議が行われました。各支部の活動状況の報告がなされたあと医療薬学セミナーなどの生涯学習の企画・運営を含めた今後の活動方針について話し合いがもたれました。今後の活発な支部活動に期待がもたれます。各支部の活動状況については、次回以降の会報で紹介していく予定です。

一薬草園に新しいアイテム
 (遊歩道とホームページ)
 ができました—
 薬学部 生薬学教室 助教授
 薬草園園長
 堀田 清

同窓生の皆さんこんにちは。昨年4月から薬草園園長を任されております薬学部3期生の堀田です。この度本学薬草園、温室の裏に新たに遊歩道(第一期工事)が完成しましたので、その紹介と薬草園のホームページのお知らせをさせていただきます。

今まで本学薬用植物園裏から渡辺山山頂を経由する簡単な散策コースがあったことをご存知の方もいらっしゃるでしょう。昨年9月に従来のコースとは全く異なる場所に季節の植物たちを観察しながら森林浴を楽しむことのできる遊歩道が完成しました(写真)。

まず、簡単に経過説明をさせていただきます。平成9年度から北海道医療大学の自己点検評価「重点課題」の1つとして、本学が所有している薬草園裏山全体の未利用地(保安林)利用の具体化に向け、裏山全体の植物調査を元薬用植物園長であった縣功先生と共に行いました。4月から8月まで計7回、裏山の地図を用い各調査毎に生育している植物名を記入し、開花期、植物の存在場所、群落の形成状況(写真付き)などが一目で分かるようにした報告書を大学当局に提出しました。平成10年度になり植林事業の一環として裏山全体に遊歩道と作業道(植林のための)を造っても良いとの許可を得たと大学側から知らされ、平成11年から13年までの三期にわたり一連の工事を行うとのことでした(下図参照)。



裏山の植物調査結果から沢地(遊歩道の第一期工事ルート)には少なくとも37科、69種類以上の植物の自生が認められました。これらのうち43種が薬用植物であり、さらにアイヌ民族によって古くから薬草として利用されてきた植物が22種、食用として利用されてきた植物が23種認められました。以上のことから薬草園裏山全体が植林事業としての利用だけではなく、将来的にはこれら貴重な植物たちが自生している沢地(遊歩道の第一期工事ルート)を中心とした北方生態薬用植物園(仮称)として広く利用できる可能性が示唆されたと考えています。

平成11年6月末、過去2年間に延べ30回以上の調査データをもとに遊歩道のルートを選定させていただきました。道無きところ(ほとんど笹藪)に道をつける

ため難航が予想されましたが、7月に工事が始まり9月中旬に無事第一期工事が完成しました。図から分かるように入り口は温室の裏側で谷をトラバースしてY字型に分岐して両尾根に続いています。この間、湿地帯がある谷には2本の橋が架けられています。また写真に示されているように、木立の間に造られた遊歩道



にウッドチップが敷き詰められており、足腰に優しいルートになっています。見ごろは春先と秋口です。4月末から5月上旬に咲き乱れるミズバショウとエゾノリュウキンカ(ヤチブキ)の大群落のおりなす白と黄色の色彩には驚かされるばかりです。10月上旬の紅葉もまたすばらしく、静けさの中に映える赤や黄色にしばし足をとめて見とれるばかりです。

平成12年度には渡辺山山頂に続く尾根沿いのルートもできる予定です。さらに平成13年度には渡辺山と反対の尾根沿いにルートができ、薬草園裏山全体が散策できるようになる予定です。



同窓生の皆様にはぜひ大学にお越しいただき、一度散策してみたいと思っています。今後は薬草園園長としてこの散策路をさらに充実させていくつもりでありますので、同窓生皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ところで、本学薬用植物園のホームページを公開しました。薬草園の四季折々の美しい花々の写真をたくさん見ることができます。現在紹介している植物は約80種、画像は150枚以上にものぼります。ホームページを一度も見たことがないという方も、試しにのぞいてみてください。もちろん写真だけではなく、植物のラテン名や別名、薬用部位、薬効なども紹介しています。その他、花言葉やその植物にまつわるお話など、楽しい情報も満載です。今後は植物の利用法や、健康のための関連情報など、生活に役立つ情報も加えて、さらに充実させて行く予定ですのでご期待ください。近日中に温室の植物と、現在整備中の遊歩道の植物も追加する予定です。

HPアドレスは以下の通りです。
<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/yakusou/index.html>
 よろしく申し上げます。

随筆 「ボストンの夕やけ」

名誉薬用植物園長
縣 功

定年記念祝賀会のとき東日薬同窓会会長の山崎信彦さんから旅行券をいただき、その後生薬学教室の卒業生が中心となって開いて下さった祝いの会でも旅行券をいただいた。大学の退職の日に大学からも旅行券をいただいて大変嬉しかった。この旅行券で何か心に残る思い出の旅をさせていただこうと種々と考えた末、長年苦勞を共にしてくれたwifeと共に40年前に私が青春の日を過ごしたボストンに行き退職での皆様方の御厚意を思い出の旅として残そうと考えた。この随筆は皆様方への御礼と報告をかねて書かせていただきます。6月24日日本を出発し新緑の頃の若芽の萌え出るボストンに着いた。ホテルはボストンの中心部にあり泊まった部屋は幸い見晴らしの良い素晴らしい部屋であった。部屋から懐かしいチャールズ川が目前にありその対岸にマサチューセッツ工科大学 (MIT) のドームが見え、そしてハーバード大学の方がはるかにのぞめた。左を見るとチャールズ川にかかるハーバードブリッジ、目でその先を追ってゆくと40年前自転車に乗ってよく聞きにいったボストンシンホニーオーケストラの本拠地のシンホニーホールが見える40年前の頃が思い出されしばし眼下を眺めていた。次の日は空がぬけるように青く澄んでいた。wifeと2人で思い出のハーバードスクエアまでタクシーでチャールズ川の川沿いにMITとハーバードを見ながら行った。そしてハーバードヤードに入り40年前通っていた研究所を訪ねた。分からなかった。！2回、3回と歩き回ってやっと昔の研究室の1部を見つけ、今研究室が増築中であることが分かった。また昔、研究室の前が広い草原だった所に大きなScience Centerができていたので全く分からなくなってしまったのだった。昔し利用していた入口の戸を開けると古びてギシギシいった。中に入り教授のいた部屋を捜すと、そこはもう近代的な測定室になっていた。外面はそのままにして内部は全く新しい。そして教授の部屋は隣りのビルデングに移っていた。しかも今まで無かった渡り廊下が前のビルデングから続いていた。あまりの変り様に大きなショックを受けた。そしてアメリカがここにあるのだと思った。昔の古いもの権威だとか、思い出などに浸ることなく、それを自ら壊して新しい進歩のために、それらをかなぐり捨てゆくというフロンテアスピリットを目の前にした。しばらく言葉もなく立ちつくして見ていた。これがアメリカか、若いエネルギーがあふれる国であると感じ、私にとっては旅の最大の収穫であった。アメリカは世界の中で最も人類の未来への可能性を語ってくれる国であると思う。この国にはアメリカ人はいてもアメリカ人種という人種はいないのである。アメリカは多くの人種から成っている。それでいてアメリカはまともな今や世界をリードしているのだ。その秘密は何であろうか、アメリカに行くときちょっと体に触れてもExcuse meという言葉が返ってくる。その謙虚な態度が無益な争いを避けていることは確かなことであろう。しかし一方アメリカ人は各個人1人1人が種々な面で確固たる信念を持っている。例えば大人数の

人が賛成しても自分の信念に反すれば1人でも反対の意見を述べる。しかし皆が議論しあって結論が出ればその結論にしたがう勇気も持っている。またアメリカではその人の仕事に対する評価が日本のそれよりも非常に厳しい、その人が仕事に全力を尽くさなければ次の年は失業してしまう。だから1人1人が自分の仕事に工夫をこらし全力を尽くす。そんなとき自分よりも更に仕事のできる人間が自分の上にくればいさぎよく年下でもその人につく。自分の仕事に全力を注いで生活している人間の諦めか、それとも、明るさか。上に述べた種々なことに加えて私はアメリカ人の性格の中に空から地上を見おろした時アメリカを訪れた人が誰しも感じる大自然がアメリカ人の心の1部を成しているのではないかと思う。大自然の厳しさ、美しさ、淋しさ、豊かさ……等々が。都会のアメリカ人は多くの人は家が郊外にあり、車を持ち何マイルも歸りに自然の中をドライブする。アメリカの大学に行くには車が必ず必要である。公園に車で行かないとならない。そこに大自然があり、おのずとそれがアメリカ人の魂の1部になっているのではなからうか。そんなことを考えながら歩いてハーバードスクエアにもどり、タクシーでボストン美術館に行った。40年前は入口から入っていたが、今は横から入る。wifeはその広さに驚いていた。時間がないのであまりあちこち見れない。モネの「日本衣装の女」をさがしあて40年前の感動と同じものをwifeと共に味わった。

ホテルに着くと夕ぐれであった。ホテルの窓から外を眺めるとチャールズ川が赤くキラキラと輝き、ハーバードのあたりに真赤にもえる夕日があり、あたりの雲をアカネ色に染めて、紅色の雲が流れていた。明日も希望に満ちた晴れた日を約束するかのよう。



1999年6月25日の写真

川がcharles river、川の向こう岸に見えるのがマサチューセッツ工科大学 (MIT)、MITの左側がHarvard university areaです。見えている橋がHarvard bridgeです。

訃 報

久田 末雄先生 平成11年6月4日逝去
(元生薬学教室教授、北海道医療大学名誉教授)

中谷 省三先生 平成12年1月13日逝去
(元環境衛生学教室教授)

謹んでお悔やみ申し上げます。

ホームページにアクセスしてみませんか？

東日薬ではホームページを開設しています。ホームページにおいても20周年記念式典の様子を紹介しています。URLは<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~phalumni/>です。

また、東日薬のホームページは大学のホームページからアクセスすることもできます。大学のURLは<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/>です。母校の様子をインターネット上で覗いて見ませんか？4ページで紹介した薬草園のホームページもこちらからアクセスできます。是非、一度アクセスして下さい。会員の皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。

編集後記

寒い日が続いております。今年もインフルエンザが流行しているようですが、会員の皆様はいかがお過ごしですか？早いもので2000年を迎えて一ヶ月が過ぎました。薬剤師をとりまく環境は厳しくなっておりますが、薬剤師にとって明るい希望のもてる21世紀を目指して20世紀最後の年を有意義なものにしたいですね。

さて、大変遅くなりましたが東日薬会報第16号をお送りしました。退官記念祝賀会の際に縣先生に旅行券をお贈りしましたが、この旅行券を利用されてボストンに思い出深いご旅行をされました。このご様子を随筆にしてご寄稿いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。お元気で奥様と仲良くお過ごしになられている先生のご様子がうかがえますし、何より私たち卒業生のことを気にかけていただいていることに大変感謝しております。先生のまたのご寄稿を楽しみにお待ちしております。

春の訪れにはまだ少し時間がかかりますが、皆さんお元気でお過ごし下さい。桜の季節になりましたら、今回紹介した遊歩道にいらっしゃいませんか？お花見と森林浴をかねて母校を訪ねてみて下さい。また、その時の感想を原稿にしてお送りいただくと幸いです。(N)